

黒潮町から全国へ

「集落福祉」いろいろ

日本福祉大学 小國 和子

昨年10月の「集落福祉」から考える中山間地セミナー」報告・第2弾です。



◆「生産×福祉」を一つの場所で

庭先集荷事業をきっかけに黒潮町の「集落福祉」を考え始めた私たちは、住民が息長く生産活動を続けるためのサービス例として、北郷地区に着目しました。

同地区では、廃校になった小学校の1階に高齢住民の集いや訪問サービスなどを担う「あったかふれあいセンター」、2階に住民の生産活動を支援し地域活性化を目指す「集落活動センター」が同居しています。

◆「多機能」の拠点を地域の中に

ふたつの事業を管轄する部署が異なることは、訪れる住民の目線に立てば問題ではありません。高齢化に伴い、アクセスできる「居場所」が少なくなるほど、1カ所であれもこれも、いろいろなことができる方が、楽しく便利でしょう。ここでもまた、「多機能化」が

キーワードです。

◆充実した日常への支援とは

「ほくごう」にやってくる人は、趣味に興じたり、おいしい食事や入浴に加え、買い物支援を利用して出荷サポートを受けたり、野菜の一次加工作業を行うなど、生産活動の機会も得ています。



私たちは、働き稼ぐこと、家族や人のために心を砕き体を動かすこと、そして自らの娯楽や余暇を楽しむことなどが重なり合う中で「充実感」を得られるのではないのでしょうか。年齢にかかわらず、主体的に充実感を得られる生活を送る―、そんな日々の実現を、「集落福祉」という言葉をきっかけに、多くの方と一緒に目指したいと考えています。

◆「ほくごう」と「ごう愛称

近隣住民に馴染みある小学校の建物を利用した「サービス拠点の多機能化」は、庭先集荷のように、単独で維持し難い事業を支える足場ともなります。この取り組みが、あらゆる世代に共通の居場所「ほくごう」として親しまれていくことを期待しています。

ぐっち協力隊がゆく!

地域おこし協力隊・田口佳子  
☎43-3306 (旧馬荷小学校)



謹んで新年のお祝いを申し上げます。皆様のご健康とご多幸を心よりお祈りいたします。

本格的な冬の到来を迎え、皆さんいかがお過ごしですか。私の勝手なイメージで、南国土佐の冬は暖かいものだと思っていましたがやっぱり冬は寒いですね。あ!ひやいですね(笑)。

5月の「Tシャツアート展」に続き、11月の「潮風のキルト展」にも馬荷の冷泉足湯を出店させていただきました。ひやいに裸足になんてなりたくない!という方も、ソックスを脱がなくても袋をかぶって入れば、濡れないしポカポカ~♪

今回は温泉卵づくり体験も行い、たくさんの方々挑戦してくれました。他にも、かきせ川上流域のとれたて野菜の販売や馬荷の七立栗の試食・販売など、ほのぼの、ゆっくりとした時間を過ごさせていただきました。

今年もぐっちと、かきせ川上流域をよろしく願いいたします。

①子どもから大人まで、幅広い世代に人気の馬荷の冷泉足湯。②温泉卵づくり体験。自分の卵に名前や絵を書いて。③地域の特産品・七立栗や野菜を販売。

